

グローバル IP アドレスの利用条件

平成28年9月30日

情報基盤センター

この文書は、電気通信大学内ネットワークにおいて、グローバル IP アドレスの利用が許可される場合の利用条件を示したものです。

グローバル IP アドレスは正当な理由がなければ利用を許可されません。グローバル IP アドレスの申請者は、申請する前にその必要性を良く吟味してください。

1. グローバル IP アドレスの利用が許可される事例

1.1 プロキシ及び SOCKS を利用することができないプロトコルが教育研究活動に必要な場合

情報基盤センターが用意しているプロキシサーバ (HTTP プロキシ) と SOCKS サーバ (汎用プロキシサーバ) を利用することができないプロトコルが教育研究活動に必要な場合は、グローバル IP アドレスの利用が許可されます。

例：テレビ会議システム (ポリコム等)

ライセンスサーバへの通信 (東大 VDEC 等)

その他プロキシ・SOCKS が利用できないプロトコル (tor や P2P ソフトウェアの研究等)

1.2 情報セキュリティを理由に接続先のサーバが接続元を限定している場合、もしくは、プロキシ経由での接続を禁止している場合

情報セキュリティ上の理由で接続先のサーバが接続元の IP アドレスを検査して接続先を限定している場合や、情報漏洩等を理由にプロキシサーバ経由の通信を禁止している場合は、グローバル IP アドレスの利用が許可されます。

例：プロキシサーバ経由の通信が利用禁止であり、IP アドレスの登録が必要なサーバへの通信 (東大 VDEC 等)

1.3 学外公開サーバを運用する場合

教育研究活動の情報を公開するウェブサーバ、リポジトリ管理システム等の教育研究活動に必要なシステムや学外からの SSH 接続をサポートする SSH サーバを運用する場合は、グローバル IP アドレスの利用が許可されます。

例：専攻・講座ウェブサーバ等

2. 注意点

2.1 NAT ルータの利用に関する注意

NAT ルータの WAN 側にグローバル IP アドレスを割り当てる場合は、そのグローバル IP アドレスの用途についてよく吟味してください。

グローバル IP アドレスの利用が許可されないシステムを NAT ルータの LAN 側に接続する場合、NAT ルータの WAN 側にグローバル IP アドレスを割り当てて利用することは許可されません。

同時に、グローバル IP アドレスの利用が許可されるシステムとグローバル IP アドレスの利用が許可されないシステムを 1 台の NAT ルータの LAN 側に混在して接続してはいけません。

2.2 学外に公開するサーバに関する注意

全ての情報機器は国立大学法人電気通信大学情報システム運用・管理実施手順書に従って運用することになっていますが、以下に学外に公開するサーバに関して特に注意しなければならない点を示します。

再三の注意喚起にも関わらず、UNIX パスワードを有効化した SSH サーバに侵入される事例が発生しています。SSH サーバを構築する場合は、UNIX パスワードでのログインを無効化し公開鍵でのログインのみを有効化してください。

CMS を用いてウェブサイトを構築する場合は、CMS と CMS が必要とするミドルウェアの脆弱性情報に常に注意を払い、既知のセキュリティホールがない状態を保たなければなりません。CMS 本体だけではなく、CMS のプラグインについても同様です。

また、CMS のログイン画面及び管理画面にはアクセス制限を設定し、学内からのみアクセス可能にしてください。